

奈良工業高等専門学校				グローバルエンジニア養成教育 プログラム(GEP) (ベーシックコ ース)								開講年度				令和04年度 (2022年度)											
学科到達目標																											
科目区 分		授業科目	科目番 号	単位種 別	単位数	学年別週当授業時数																担当教 員	履修上 の区分				
						1年				2年				3年				4年						5年			
						前		後		前		後		前		後		前		後				前		後	
						1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q			1 Q	2 Q	3 Q	4 Q
一般	選択	英語アクティブラーニン グⅠ	0001	履修単 位	1	1																朴 槿英					
一般	選択	異文化交流Ⅰ	0002	履修単 位	1	集中講義																朴 槿英					
一般	選択	海外協働研修Ⅰ	0003	履修単 位	1	集中講義																稲田 直 久,朴 槿英					
一般	選択	英語アクティブラーニン グⅠ	0004	履修単 位	1				1	1												朴 槿英					
一般	選択	英語アクティブラーニン グⅡ	0005	履修単 位	1				1	1												朴 槿英					
一般	選択	異文化交流Ⅱ	0006	履修単 位	1				集中講義													朴 槿英					
一般	選択	海外協働研修Ⅱ	0007	履修単 位	1				集中講義													稲田 直 久,朴 槿英					
一般	選択	英語アクティブラーニン グⅠ	0005	履修単 位	1							1	1									朴 槿英					
一般	選択	英語アクティブラーニン グⅡ	0006	履修単 位	1							1	1									朴 槿英					
一般	選択	グローバルコミュニケー ション	0007	学修単 位	2							2										朴 槿英					
一般	選択	異文化交流Ⅲ	0008	履修単 位	1							集中講義										朴 槿英					
一般	選択	海外協働研修Ⅲ	0009	履修単 位	1							集中講義										稲田 直 久,朴 槿英					
一般	選択	グローバルエンジニアス キル	0010	学修単 位	2							2										Leigh McDo well					
一般	選択	英語アクティブラーニン グⅠ	0007	履修単 位	1										1	1						朴 槿英					
一般	選択	英語アクティブラーニン グⅡ	0008	履修単 位	1										1	1						朴 槿英					
一般	選択	グローバルコミュニケー ション	0009	学修単 位	2										2							朴 槿英					
一般	選択	異文化交流Ⅳ	0010	履修単 位	1										集中講義							朴 槿英					
一般	選択	海外協働研修Ⅳ	0011	履修単 位	1										集中講義							稲田 直 久,朴 槿英					
一般	選択	グローバルエンジニアス キル	0012	学修単 位	2										2							Leigh McDo well					
一般	選択	英語アクティブラーニン グⅡ	0007	履修単 位	1													1	1			朴 槿英					
一般	選択	グローバルコミュニケー ション	0008	学修単 位	2													2				朴 槿英					
一般	選択	異文化交流Ⅴ	0009	履修単 位	1													集中講義				朴 槿英					
一般	選択	海外協働研修Ⅴ	0010	履修単 位	1													集中講義				稲田 直 久,朴 槿英					
一般	選択	グローバルエンジニアス キル	0011	学修単 位	2													2				Leigh McDo well					

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	英語アクティブラーニング I	
科目基礎情報							
科目番号	0001			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	グローバルエンジニア養成教育プログラム (GEP) (ベーシックコース)			対象学年	1		
開設期	通年			週時間数	1		
教科書/教材	ALC NetAcademy Next						
担当教員	朴 槿英						
到達目標							
グローバル人材に求められる英語力を身につけるため、オンライン学習ソフト（ALC NetAcademy Next）などにおける自学自習を積極的に行い、期間内に指定のコースを修了する。尚、実用英語技能検定試験など資格試験を受験し、想定レベル（英語検定試験準2 級合格、もしくは、TOEIC 400 点以上）に到達することを目指す。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1 指定コースにおける学習レベル		計画的に自学自習を行い、指定のコースを修了できた。尚、英語の資格試験を受験し、想定レベルに到達することができた。		自学自習を行い、指定のコースを修了できた。		自学自習を行ったものの、指定のコースを修了できなかった。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	技能審査の成果にもとづく単位認定については、教育課程編成の多様化・弾力化の一つの方策として、平成5年3月の学校教育法施行規則の改正により制度化された。この制度の円滑な実施を図るために、選択教科・科目の幅を拡大して、多様な弾力的な教育課程を編成している。これにより、学校外での学修を30単位を超えない範囲で当該高専での授業科目の修得とみなし、単位の修得を認定することが可能となった。そして実用英語技能検定試験（実用英検）などについて、自主的判断に基づき単位が認められることになった。						
授業の進め方・方法	「高等専門学校が単位の修得を認定できる学修を定める件（告示）」でいう、技能審査の認定に関する規則による文部科学大臣の認定を受けていないTOEIC については、受講者の取り組み状況（学習内容及び学習時間等）を示すレポート等の提出をもって、それぞれ、以下のスコアを目安とする学修に対する評価を別途行うことにより、単位認定するものとする。						
注意点	関連科目：英語関連科目 学習指針：英語資格試験の問題を通して、抜け落ちている基礎的な英単語力や英文法力を補強していく。 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習：学ぶ習慣を身につけてほしい。そのため、家庭での日々の英語学習に重点が置かれることになる。学会で用いられるキーワードに基づいて積極的に学習に取り組むこと。 事後展開学習：英語資格試験を受験し、想定レベルに到達すること。想定レベルに到達した後は、個別にレベルの段階的に上げ、継続的に学習に取り組む積極的な学習態度が望ましい。						
学修単位の履修上の注意							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	単位認定について： ・単位認定のための申請を行うことが必須である。 ・例年 1 月末に申込期間を設定し、学生には掲示板にて公示されるので、1 月に入って掲示板を確認すること。 ・コース修了を証明する書類を申請用紙に添えてグローバル教育センターに提出すること。 ・提出された書類の総合評価が60%以上に達していること。		・計画的に自学自習を行い、指定のコースを修了する。 ・英語資格試験を受験し、想定レベルに到達する。 ・英語検定試験準2 級合格、もしくは、TOEIC 400 点以上を取得すること。		
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
後期	3rdQ	1週					
		2週					

		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	自学自習の取り組み状況		英語資格試験	合計
総合評価割合	60		40	100
基礎的能力	60		40	100

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	異文化交流 I	
科目基礎情報							
科目番号	0002			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	グローバルエンジニア養成教育プログラム (GEP) (ベーシックコース)			対象学年	1		
開設期	集中			週時間数			
教科書/教材	「CLIL Seeing the World through Maps (CLIL 英語と地図で学ぶ世界事情)」、三修社、笹島茂 他 著						
担当教員	朴 槿英						
到達目標							
1. 文化の多様性に気付き、異文化理解に対する意識を高めるとともに、自国の文化との違いを認知することができる。また、本校が提供するイマージョン・プログラム (immersion program) および国際交流プログラムに参加し、仲間と協力してその準備に積極的に取り組むことができる。 2. 異文化の存在を意識し、どのような態度で異文化を受け入れるべきか考え、行動に移すことができる。主に英語を用いてプレゼンテーションおよびビデオ制作をすることができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
英語による異文化理解力	地図を通して世界の地理や歴史を英語で十分理解できる。			地図を通して世界の地理や歴史を英語である程度理解できる。		地図を通して世界の地理や歴史を英語で理解できない。	
グローバル・コミュニケーション力	様々な地域 (area) の事情について、流暢な英語でコミュニケーションできる。			様々な地域 (area) の事情について、簡単な英語でコミュニケーションできる。		様々な地域 (area) の事情について、英語でコミュニケーションできない。	
英語によるクリエイティブな制作力	グループワークによる英語プレゼンテーションおよびビデオ制作ができる。			グループワークによる英語プレゼンテーションまたはビデオ制作ができる。		グループワークによる英語プレゼンテーションまたはビデオ制作ができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	異文化に関するオープンマインドな姿勢でイマージョンプログラムおよび国際交流プログラムに参加し、英語によるプレゼンテーションやコミュニケーションを行うことで実践的なグローバル感覚を身につける。なお、ヨーロッパで普及している理科や社会などの科目内容と言語を統合した学習法、CLIL (Content and Language Integrated Learning) を用いて、地図を題材としながら世界の事情を英語で学び、考え、話し合う。						
授業の進め方・方法	講義、イマージョンプログラムにより、「異文化理解」における3つの構成要素(①態度・②知識・③技能)を理解した上で、各プログラムのテストに従って、グループワークによる英語プレゼンテーションおよび英語ビデオ制作の準備を行う。また、国際交流プログラムへの参加と異文化交流を通して修得した知見をレポートにまとめ提出する。						
注意点	異文化理解に対するオープンマインドな姿勢を有することが必要である。そして実践的な異文化交流を行う対象国に関する基礎知識を事前に習得するなど、積極的な取り組みが必要である。 関連科目：人文科学系の科目および社会科学系の科目の中、英語および社会、地理、文化に関連する科目 学習指針：英語コミュニケーション能力の向上のために「聞く」、「話す」練習を行うこと。異文化交流プログラムへの参加に向けて英語による発表資料を作成すること。 自己学習 (事前学習および事後展開学習) 事前学習：異文化交流を行う対象国に関する基礎知識を事前に調査すること。学校紹介や日本文化に関する英語プレゼンテーションを行うための資料収集、英作文練習、発音練習を行うこと。 事後展開学習：各異文化交流プログラムを通じて学んだ知識、教養に関する英文報告書を作成すること。						
学修単位の履修上の注意							
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	Guidance of Lecture Contents and Teaching Methods		To understand how to learn the contents in English		
		2週	Area 1 : Europe Sweets and the House of Habsburg / The European Union		To understand the stories of Habsburg and the European Union		
		3週	Area 2 : Africa The Masai Mara National Reserve / Souvenir Shopping in Africa		To expand the interest and knowledge about Africa		
		4週	Area 3 : The Middle East Holy Places / Strategic Seaway		To enjoy thinking related on the Middle East		
		5週	Area 4 : South Asia Mumbai and Jaipur / Afghanistan		To be critical on the social issues in South Asia		
		6週	Area 5 : Russia and its Neighboring Countries St. Petersburg / Ukraine : Caught between Russia and Europe		To be flexible and to use English for speaking out		
		7週	Area 6 : East Asia Super Sky Railway to Inner Highland / The Two different Faces of Korea		To integrate learning for taking a step forward		
		8週	Area 7 : Southeast Asia A Country of Cultural Diversity / Religious Diversity		To compare cultural and religious diversity		
	2ndQ	9週	Area 8 : North America Country of Immigrants / The American Dream		To understand the history of America		

		10週	Area 9 : Central America and the Caribbean The Panama Canal / Revolution and Socialism	To expand the knowledge about Central America and the Caribbean
		11週	Area 10 : South America Rio de Janeiro / Japanese Immigrants	To understand the history related on Japanese immigrants in South America
		12週	Area 11 : The South Pacific and the Antarctic The Last Unknown Place on the Earth / What is the Antarctic like?	To enjoy learning about the last unknown place on the earth
		13週	Area 12 : Australia and New Zealand A Continent of Modern Cities and Unique Nature / Animals and Plants Unique to Australia and New Zealand	To develop intercultural communicative competence
		14週	Summarizing : Group Presentation & Discussion	To express the knowledge of other countries with intercultural understanding
		15週	Final Assignment	
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		Group Presentation	Assignment / Report	合計	
総合評価割合		50	50	100	
基礎的能力		50	50	100	

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	海外協働研修 I	
科目基礎情報							
科目番号	0003			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	グローバルエンジニア養成教育プログラム (GEP) (ベーシックコース)			対象学年	1		
開設期	集中			週時間数			
教科書/教材	Original Handouts / 本校で実施している, 国際交流等の報告発表会などが参考となる。						
担当教員	稲田 直久, 朴 槿英						
到達目標							
・ 英語による学問的ディスカッションスキルを深めるとともに, 外国との文化や価値観について自ら調査し, 日本文化との違いについて英語で発表できる。 ・ 母語以外の外国語によるウェビナーなどに参加し, 英語プレゼンテーションおよび質疑応答を行うことができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	異文化に対する理解を深めるとともに, 他者・他国の立場に立ってその価値観の違いを認め, 自国の文化についても紹介ができる。			異文化に対する理解がある。自国の文化について, 簡単な外国語で紹介ができる。		異文化に対する理解が不十分で, 他者・他国の立場に立ってその価値観の違いの認識ができない。自国の文化について, 紹介できない。	
評価項目2	外国語によるコミュニケーションを図ることができる。			外国語によるコミュニケーションを図ることができる。		外国語によるコミュニケーションを図ることができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	海外の教育機関への語学留学, 短期・長期の海外研修, 国際交流・フォーラム・学会・展示会などのプログラムに対する学生の積極的な参加を促すとともに, グローバルマインドの育成, 異文化に対する理解力の向上, 外国語学習への意欲を高めることを目的とする。						
授業の進め方・方法	本校や本校が認めた海外の機関が実施する国際交流プログラムの他, 様々なインターナショナル・プログラムなどにおいて, アクティブな実践活動を行う。 なお, 各自がプログラムの活動目標を設定し, 積極的な態度で臨む必要がある。						
注意点	海外協定校や学校が認める海外機関との国際交流・フォーラム・セミナー・学会・展示会などで活動する事前準備 (活動のために必要な外国語運用能力およびグローバルなマインド, 国際文化に対する基本的な教養を身に備えるなど, 積極的な準備活動が必要である。) 学習指針: 研修先の参加者と積極的に交流し, 工学・技術の分野だけでなく, 文化について学ぶ積極的な姿勢が求められる。 関連科目: 人文科学系の科目および社会科学系の科目の中, 英語および, 日本文化, 世界文化に関連する科目 自己学習 (事前学習および事後展開学習) 事前学習としては, 外国語コミュニケーション能力を身に着けるためのリスニング, スピーキング練習をすること。国際文化に関する基礎知識を事前に習得すること。 事後展開学習としては, 活動を通じて学んだ知識に関する英文報告書を作成すること。						
学修単位の履修上の注意							
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	1. 実施時期 学校に認められた期間 2. 実施期間 合計30 時間以上 3. 研修内容 研修先のプログラムによる (研修先の文化に触れ, 日本語以外の言語による交流や学習がなされること) 4. 研修先 学校が認めた研修先 5. スケジュール 事前に「単位認定申請・認定書」(所定の様式)をグローバル教育センターで受け取る。 研修終了後, 速やかに「研修等終了報告書」(様式任意)「プログラム・要項」等, 研修内容等が記された書類「プログラム修了証書」など, 関連書類を提出する。 研修報告会(12月頃予定)において研修成果を発表する。		・ 英語による学問的ディスカッションスキルを深めるとともに, 外国との文化や価値観について自ら調査し, 日本文化との違いについて英語で発表できる。 ・ 英語によるウェビナーなどに参加し, 英語プレゼンテーションおよび質疑応答を行うことができる。		
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					

		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標				
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル 授業週
評価割合				
	報告書	報告会での発表	合計	
総合評価割合	50	50	100	
基礎的能力	50	50	100	

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	英語アクティブラーニング I
科目基礎情報					
科目番号	0004		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	グローバルエンジニア養成教育プログラム (GEP) (ベーシックコース)		対象学年	2	
開設期	通年		週時間数	1	
教科書/教材	ALC NetAcademy Next				
担当教員	朴 槿英				
到達目標					
グローバル人材に求められる英語力を身につけるため、オンライン学習ソフト (ALC NetAcademy Next) などにおける自学自習を積極的に行い、期間内に指定のコースを修了する。尚、実用英語技能検定試験など資格試験を受験し、想定レベル (英語検定試験準2 級合格、もしくは、TOEIC 400 点以上) に到達することを目指す。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1 指定コースにおける学習レベル	計画的に自学自習を行い、指定のコースを修了できた。尚、英語の資格試験を受験し、想定レベルに到達することができた。		自学自習を行い、指定のコースを修了できた。		自学自習を行ったものの、指定のコースを修了できなかった。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	技能審査の成果にもとづく単位認定については、教育課程編成の多様化・弾力化の一つの方策として、平成5年3月の学校教育法施行規則の改正により制度化された。この制度の円滑な実施を図るために、選択教科・科目の幅を拡大して、多様で弾力的な教育課程を編成している。これにより、学校外での学修を30単位を超えない範囲で当該高専での授業科目の修得とみなし、単位の修得を認定することが可能となった。そして実用英語技能検定試験 (実用英検) などについて、自主的判断に基づき単位が認められることになった。				
授業の進め方・方法	「高等専門学校が単位の修得を認定できる学修を定める件 (告示)」でいう、技能審査の認定に関する規則による文部科学大臣の認定を受けていないTOEIC については、受講者の取り組み状況 (学習内容及び学習時間等) を示すレポート等の提出をもって、それぞれ、以下のスコアを目安とする学修に対する評価を別途行うことにより、単位認定するものとする。				
注意点	関連科目：英語関連科目 学習指針：英語資格試験の問題を通して、抜け落ちている基礎的な英単語力や英文法力を補強していく。 自己学習 (事前学習および事後展開学習) 事前学習：学ぶ習慣を身につけてほしい。そのため、家庭での日々の英語学習に重点が置かれることになる。学会で用いられるキーワードに基づいて積極的に学習に取り組むこと。 事後展開学習：英語資格試験を受験し、想定レベルに到達すること。想定レベルに到達した後は、個別にレベルの段階的に上げ、継続的に学習に取り組む積極的な学習態度が望ましい。				
学修単位の履修上の注意					
授業の属性・履修上の区分					
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	単位認定について： ・単位認定のための申請を行うことが必須である。 ・例年1月末に申込期間を設定し、学生には掲示板にて公示されるので、1月に入って掲示板を確認すること。 ・コース修了を証明する書類を申請用紙に添えてグローバル教育センターに提出すること。 ・提出された書類の総合評価が60%以上に達していること。	・計画的に自学自習を行い、指定のコースを修了する。 ・英語資格試験を受験し、想定レベルに到達する。 ・英語検定試験準2 級合格、もしくは、TOEIC 400 点以上を取得すること。	
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
後期	3rdQ	1週			
		2週			

		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		自学自習の取り組み状況	英語資格試験	合計	
総合評価割合		60	40	100	
基礎的能力		60	40	100	

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	英語アクティブラーニングⅡ	
科目基礎情報							
科目番号	0005		科目区分		一般 / 選択		
授業形態	演習		単位の種別と単位数		履修単位: 1		
開設学科	グローバルエンジニア養成教育プログラム (GEP) (ベーシックコース)		対象学年		2		
開設期	通年		週時間数		1		
教科書/教材	ALC NetAcademy Next						
担当教員	朴 槿英						
到達目標							
グローバル人材に求められる英語力を身につけるため、オンライン学習ソフト（ALC NetAcademy Next）などにおける自学自習を積極的に行い、期間内に指定のコースを修了する。尚、実用英語技能検定試験など資格試験を受験し、想定レベル（英語検定試験2 級合格、もしくは、TOEIC 550 点以上）に到達することを目指す。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		計画的に自学自習を行い、指定のコースを修了できた。尚、資格試験で想定レベルに到達できた。		自学自習を行い、指定のコースを修了できた。		自学自習を行ったものの、指定のコースを修了できなかった。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	技能審査の成果にもとづく単位認定については、教育課程編成の多様化・弾力化の一つの方策として、平成5年3月の学校教育法施行規則の改正により制度化された。この制度の円滑な実施を図るために、選択教科・科目の幅を拡大して、多様で弾力的な教育課程を編成している。これにより、学校外での学修を30単位を超えない範囲で当該高専での授業科目の修得とみなし、単位の修得を認定することが可能となった。そして実用英語技能検定試験（実用英検）などについて、自主的判断に基づき単位が認められることになった。						
授業の進め方・方法	「高等専門学校が単位の修得を認定できる学修を定める件（告示）」でいう、技能審査の認定に関する規則による文部科学大臣の認定を受けていないTOEIC については、受講者の取り組み状況（学習内容及び学習時間等）を示すレポート等の提出をもって、それぞれ、以下のスコアを目安とする学修に対する評価を別途行うことにより、単位認定するものとする。						
注意点	英語アクティブラーニングⅠを履修していることが英語アクティブラーニングⅡの履修条件となる。 関連科目：英語アクティブラーニングⅠ 学習指針：英語資格試験の問題を通して、抜け落ちている基礎的な英単語力や英文法力を補強していく。 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習：学ぶ習慣を身につけてほしい。そのため、家庭での日々の英語学習に重点が置かれることになる。学会で用いられるキーワードに基づいて積極的に学習に取り組むこと。 事後展開学習：英語資格試験を受験し、想定レベル（英語検定試験2 級合格、もしくは、TOEIC 550 点以上）に到達すること。想定レベルに到達した後は、個別にレベルの段階的に上げ、継続的に学習に取り組む積極的な学習態度が望ましい。						
学修単位の履修上の注意							
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	単位認定について： ・履修申請時に英語アクティブラーニングⅠを履修していることが必須条件となる。 ・単位認定のための申請を行うことが必須である。 ・例年1月末に申込期間を設定し、学生には掲示板にて公示されるので、1月に入って掲示板を確認すること。 ・コース修了を証明する書類を申請用紙に添えてグローバル教育センターに提出すること。 ・提出された書類の総合評価が60%以上に達していること。		・計画的に自学自習を行い、指定のコースを修了することができる。 ・英語資格試験を受験し、想定レベルに到達する。 ・英語検定試験2 級合格、もしくは、TOEIC 550 点以上を取得すること。		
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
後期	3rdQ	1週					
		2週					

		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	自学自習の取り組み状況		英語資格試験	合計
総合評価割合	60		40	100
基礎的能力	60		40	100

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	異文化交流Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	0006			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	グローバルエンジニア養成教育プログラム (GEP) (ベーシックコース)			対象学年	2		
開設期	集中			週時間数			
教科書/教材	「CLIL Seeing the World through Maps (CLIL 英語と地図で学ぶ世界事情)」、三修社、笹島茂 他 著						
担当教員	朴 槿英						
到達目標							
1. 文化の多様性に気付き、異文化理解に対する意識を高めるとともに、自国の文化との違いを認知することができる。また、本校が提供するイマージョン・プログラム (immersion program) および国際交流プログラムに参加し、仲間と協力してその準備に積極的に取り組むことができる。 2. 異文化の存在を意識し、どのような態度で異文化を受け入れるべきか考え、行動に移すことができる。主に英語を用いてプレゼンテーションおよびビデオ制作をすることができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
英語による異文化理解力	地図を通して世界の地理や歴史を英語で十分理解できる。			地図を通して世界の地理や歴史を英語である程度理解できる。		地図を通して世界の地理や歴史を英語で理解できない。	
グローバル・コミュニケーション力	様々な地域 (area) の事情について、流暢な英語でコミュニケーションできる。			様々な地域 (area) の事情について、簡単な英語でコミュニケーションできる。		様々な地域 (area) の事情について、英語でコミュニケーションできない。	
英語によるクリエイティブな制作力	グループワークによる英語プレゼンテーションおよびビデオ制作ができる。			グループワークによる英語プレゼンテーションまたはビデオ制作ができる。		グループワークによる英語プレゼンテーションまたはビデオ制作ができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	異文化に関するオープンマインドな姿勢でイマージョンプログラムおよび国際交流プログラムに参加し、英語によるプレゼンテーションやコミュニケーションを行うことで実践的なグローバル感覚を身につける。なお、ヨーロッパで普及している理科や社会などの科目内容と言語を統合した学習法、CLIL (Content and Language Integrated Learning) を用いて、地図を題材としながら世界の事情を英語で学び、考え、話し合う。						
授業の進め方・方法	講義、イマージョンプログラムにより、「異文化理解」における3つの構成要素(①態度・②知識・③技能)を理解した上で、各プログラムのテストに従って、グループワークによる英語プレゼンテーションおよび英語ビデオ制作の準備を行う。また、国際交流プログラムへの参加と異文化交流を通して修得した知見をレポートにまとめ提出する。						
注意点	異文化理解に対するオープンマインドな姿勢を有することが必要である。そして実践的な異文化交流を行う対象国に関する基礎知識を事前に習得するなど、積極的な取り組みが必要である。 関連科目: 人文科学系の科目および社会科学系の科目の中、英語および社会、地理、文化に関連する科目 学習指針: 英語コミュニケーション能力の向上のために「聞く」、「話す」練習を行うこと。異文化交流プログラムへの参加に向けて英語による発表資料を作成すること。 自己学習 (事前学習および事後展開学習) 事前学習: 異文化交流を行う対象国に関する基礎知識を事前に調査すること。学校紹介や日本文化に関する英語プレゼンテーションを行うための資料収集、英作文練習、発音練習を行うこと。 事後展開学習: 各異文化交流プログラムを通じて学んだ知識、教養に関する英文報告書を作成すること。						
学修単位の履修上の注意							
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	Guidance of Lecture Contents and Teaching Methods		To understand how to learn the contents in English		
		2週	Area 1 : Europe Sweets and the House of Habsburg / The European Union		To understand the stories of Habsburg and the European Union		
		3週	Area 2 : Africa The Masai Mara National Reserve / Souvenir Shopping in Africa		To expand the interest and knowledge about Africa		
		4週	Area 3 : The Middle East Holy Places / Strategic Seaway		To enjoy thinking related on the Middle East		
		5週	Area 4 : South Asia Mumbai and Jaipur / Afghanistan		To be critical on the social issues in South Asia		
		6週	Area 5 : Russia and its Neighboring Countries St. Petersburg / Ukraine : Caught between Russia and Europe		To be flexible and to use English for speaking out		
		7週	Area 6 : East Asia Super Sky Railway to Inner Highland / The Two different Faces of Korea		To integrate learning for taking a step forward		
		8週	Area 7 : Southeast Asia A Country of Cultural Diversity / Religious Diversity		To compare cultural and religious diversity		
	2ndQ	9週	Area 8 : North America Country of Immigrants / The American Dream		To understand the history of America		

		10週	Area 9 : Central America and the Caribbean The Panama Canal / Revolution and Socialism	To expand the knowledge about Central America and the Caribbean
		11週	Area 10 : South America Rio de Janeiro / Japanese Immigrants	To understand the history related on Japanese immigrants in South America
		12週	Area 11 : The South Pacific and the Antarctic The Last Unknown Place on the Earth / What is the Antarctic like?	To enjoy learning about the last unknown place on the earth
		13週	Area 12 : Australia and New Zealand A Continent of Modern Cities and Unique Nature / Animals and Plants Unique to Australia and New Zealand	To develop intercultural communicative competence
		14週	Summarizing : Group Presentation & Discussion	To express the knowledge of other countries with intercultural understanding
		15週	Final Assignment	
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		Group Presentation	Assignment / Report	合計	
総合評価割合		50	50	100	
基礎的能力		50	50	100	

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	海外協働研修Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0007		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	グローバルエンジニア養成教育プログラム (GEP) (ベーシックコース)		対象学年	2	
開設期	集中		週時間数		
教科書/教材	Original Handouts / 本校で実施している, 国際交流等の報告発表会などが参考となる。				
担当教員	稲田 直久,朴 槿英				
到達目標					
・ 英語による学問的ディスカッションスキルを深めるとともに, 外国との文化や価値観について自ら調査し, 日本文化との違いについて英語で発表できる。 ・ 母語以外の外国語によるウェビナーなどに参加し, 英語プレゼンテーションおよび質疑応答を行うことができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	異文化に対する理解を深めるとともに、他者・他国の立場に立ってその価値観の違いを認め、自国の文化についても紹介ができる。		異文化に対する理解がある。 自国の文化について、簡単な外国語で紹介ができる。		異文化に対する理解が不十分で、他者・他国の立場に立ってその価値観の違いの認識ができない。 自国の文化について、紹介できない。
評価項目2	外国語によるコミュニケーションを図ることができる。		外国語によるコミュニケーションを図ることができる。		外国語によるコミュニケーションを図ることができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	海外の教育機関への語学留学, 短期・長期の海外研修, 国際交流・フォーラム・学会・展示会などのプログラムに対する学生の積極的な参加を促すとともに, グローバルマインドの育成, 異文化に対する理解力の向上, 外国語学習への意欲を高めることを目的とする。				
授業の進め方・方法	本校や本校が認めた海外の機関が実施する国際交流プログラムの他, 様々なインターナショナル・プログラムなどにおいて, アクティブな実践活動を行う。 なお, 各自がプログラムの活動目標を設定し, 積極的な態度で臨む必要がある。				
注意点	海外協定校や学校が認める海外機関との国際交流・フォーラム・セミナー・学会・展示会などで活動する事前準備（活動のために必要な外国語運用能力およびグローバルなマインド、国際文化に対する基本的な教養を身に備えるなど、積極的な準備活動が必要である。） 学習指針：研修先の参加者と積極的に交流し, 工学・技術の分野だけでなく, 文化について学ぶ積極的な姿勢が求められる。 関連科目：人文科学系の科目および社会科学系の科目の中、英語および、日本文化、世界文化に関連する科目 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習としては、外国語コミュニケーション能力を身に着けるためのリスニング、スピーキング練習をすること。国際文化に関する基礎知識を事前に習得すること。 事後展開学習としては、活動を通じて学んだ知識に関する英文報告書を作成すること。				
学修単位の履修上の注意					
授業の属性・履修上の区分					
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応	
				☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	1. 実施時期 学校に認められた期間 2. 実施期間 合計30 時間以上 3. 研修内容 研修先のプログラムによる (研修先の文化に触れ, 日本語以外の言語による交流や学習がなされること) 4. 研修先 学校が認めた研修先 5. スケジュール 事前に「単位認定申請・認定書」(所定の様式)をグローバル教育センターで受け取る。 研修終了後, 速やかに「研修等終了報告書」(様式任意)「プログラム・要項」等, 研修内容等が記された書類「プログラム修了証書」など、関連書類を提出する。 研修報告会(12月頃予定)において研修成果を発表する。	・ 英語による学問的ディスカッションスキルを深めるとともに, 外国との文化や価値観について自ら調査し, 日本文化との違いについて英語で発表できる。 ・ 英語によるウェビナーなどに参加し, 英語プレゼンテーションおよび質疑応答を行うことができる。	
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			

		12週				
		13週				
		14週				
		15週				
		16週				
後期	3rdQ	1週				
		2週				
		3週				
		4週				
		5週				
		6週				
		7週				
		8週				
	4thQ	9週				
		10週				
		11週				
		12週				
		13週				
		14週				
15週						
16週						
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合						
		報告書	報告会での発表		合計	
総合評価割合		50	50		100	
基礎的能力		50	50		100	

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	英語アクティブラーニング I	
科目基礎情報							
科目番号	0005			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	グローバルエンジニア養成教育プログラム (GEP) (ベーシックコース)			対象学年	3		
開設期	通年			週時間数	1		
教科書/教材	ALC NetAcademy Next						
担当教員	朴 謹英						
到達目標							
グローバル人材に求められる英語力を身につけるため、オンライン学習ソフト（ALC NetAcademy Next）などにおける自学自習を積極的に行い、期間内に指定のコースを修了する。尚、実用英語技能検定試験など資格試験を受験し、想定レベル（英語検定試験準2 級合格、もしくは、TOEIC 400 点以上）に到達することを目指す。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1 指定コースにおける学習レベル		計画的に自学自習を行い、指定のコースを修了できた。尚、英語の資格試験を受験し、想定レベルに到達することができた。		自学自習を行い、指定のコースを修了できた。		自学自習を行ったものの、指定のコースを修了できなかった。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	技能審査の成果にもとづく単位認定については、教育課程編成の多様化・弾力化の一つの方策として、平成5年3月の学校教育法施行規則の改正により制度化された。この制度の円滑な実施を図るために、選択教科・科目の幅を拡大して、多様で弾力的な教育課程を編成している。これにより、学校外での学修を30単位を超えない範囲で当該高専での授業科目の修得とみなし、単位の修得を認定することが可能となった。そして実用英語技能検定試験（実用英検）などについて、自主的判断に基づき単位が認められることになった。						
授業の進め方・方法	「高等専門学校が単位の修得を認定できる学修を定める件（告示）」でいう、技能審査の認定に関する規則による文部科学大臣の認定を受けていないTOEIC については、受講者の取り組み状況（学習内容及び学習時間等）を示すレポート等の提出をもって、それぞれ、以下のスコアを目安とする学修に対する評価を別途行うことにより、単位認定するものとする。						
注意点	関連科目：英語関連科目 学習指針：英語資格試験の問題を通して、抜け落ちている基礎的な英単語力や英文法力を補強していく。 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習：学ぶ習慣を身につけてほしい。そのため、家庭での日々の英語学習に重点が置かれることになる。学会で用いられるキーワードに基づいて積極的に学習に取り組むこと。 事後展開学習：英語資格試験を受験し、想定レベルに到達すること。想定レベルに到達した後は、個別にレベルの段階的に上げ、継続的に学習に取り組む積極的な学習態度が望ましい。						
学修単位の履修上の注意							
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	単位認定について： ・単位認定のための申請を行うことが必須である。 ・例年 1 月末に申込期間を設定し、学生には掲示板にて公示されるので、1 月に入って掲示板を確認すること。 ・コース修了を証明する書類を申請用紙に添えてグローバル教育センターに提出すること。 ・提出された書類の総合評価が60%以上に達していること。		・計画的に自学自習を行い、指定のコースを修了する。 ・英語資格試験を受験し、想定レベルに到達する。 ・英語検定試験準2 級合格、もしくは、TOEIC 400 点以上を取得すること。		
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
後期	3rdQ	1週					
		2週					

		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	自学自習の取り組み状況		英語資格試験	合計
総合評価割合	60		40	100
基礎的能力	60		40	100

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	英語アクティブラーニングⅡ	
科目基礎情報							
科目番号	0006			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	グローバルエンジニア養成教育プログラム (GEP) (ベーシックコース)			対象学年	3		
開設期	通年			週時間数	1		
教科書/教材	ALC NetAcademy Next						
担当教員	朴 槿英						
到達目標							
グローバル人材に求められる英語力を身につけるため、オンライン学習ソフト（ALC NetAcademy Next）などにおける自学自習を積極的に行い、期間内に指定のコースを修了する。尚、実用英語技能検定試験など資格試験を受験し、想定レベル（英語検定試験2 級合格、もしくは、TOEIC 550 点以上）に到達することを目指す。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		計画的に自学自習を行い、指定のコースを修了できた。尚、資格試験で想定レベルに到達できた。		自学自習を行い、指定のコースを修了できた。		自学自習を行ったものの、指定のコースを修了できなかった。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	技能審査の成果にもとづく単位認定については、教育課程編成の多様化・弾力化の一つの方策として、平成5年3月の学校教育法施行規則の改正により制度化された。この制度の円滑な実施を図るために、選択教科・科目の幅を拡大して、多様で弾力的な教育課程を編成している。これにより、学校外での学修を30単位を超えない範囲で当該高専での授業科目の修得とみなし、単位の修得を認定することが可能となった。そして実用英語技能検定試験（実用英検）などについて、自主的判断に基づき単位が認められることになった。						
授業の進め方・方法	「高等専門学校が単位の修得を認定できる学修を定める件（告示）」でいう、技能審査の認定に関する規則による文部科学大臣の認定を受けていないTOEIC については、受講者の取り組み状況（学習内容及び学習時間等）を示すレポート等の提出をもって、それぞれ、以下のスコアを目安とする学修に対する評価を別途行うことにより、単位認定するものとする。						
注意点	英語アクティブラーニングⅠを履修していることが英語アクティブラーニングⅡの履修条件となる。 関連科目：英語アクティブラーニングⅠ 学習指針：英語資格試験の問題を通して、抜け落ちている基礎的な英単語力や英文法力を補強していく。 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習：学ぶ習慣を身につけてほしい。そのため、家庭での日々の英語学習に重点が置かれることになる。学会で用いられるキーワードに基づいて積極的に学習に取り組むこと。 事後展開学習：英語資格試験を受験し、想定レベル（英語検定試験2 級合格、もしくは、TOEIC 550 点以上）に到達すること。想定レベルに到達した後は、個別にレベルの段階的に上げ、継続的に学習に取り組む積極的な学習態度が望ましい。						
学修単位の履修上の注意							
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	単位認定について： ・履修申請時に英語アクティブラーニングⅠを履修していることが必須条件となる。 ・単位認定のための申請を行うことが必須である。 ・例年1月末に申込期間を設定し、学生には掲示板にて公示されるので、1月に入って掲示板を確認すること。 ・コース修了を証明する書類を申請用紙に添えてグローバル教育センターに提出すること。 ・提出された書類の総合評価が60%以上に達していること。		・計画的に自学自習を行い、指定のコースを修了することができる。 ・英語資格試験を受験し、想定レベルに到達する。 ・英語検定試験2 級合格、もしくは、TOEIC 550 点以上を取得すること。		
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
後期	3rdQ	1週					
		2週					

		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	自学自習の取り組み状況		英語資格試験	合計
総合評価割合	60		40	100
基礎的能力	60		40	100

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	グローバルコミュニケーション
科目基礎情報						
科目番号	0007		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	グローバルエンジニア養成教育プログラム (GEP) (ベーシックコース)		対象学年	3		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	Original Handouts					
担当教員	朴 槿英					
到達目標						
This lecture aims to encourage students to express their thoughts related to various social issues as well as to develop listening, speaking, reading, and writing skills needed to discuss in English fluently. 本講義では、英語で流暢に話し合うために必要なリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングスキルを伸ばし、様々な社会問題に関する考えを述べる力を養うことを目的とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
リスニング能力	英語ニュース(必要語彙数約5000語)を聞き、正しく理解することができる。		英語ニュース(必要語彙数約5000語)を聞き、おおむね理解することができる。		英語ニュース(必要語彙数約5000語)を聞き、正しく理解することができない。	
スピーキング能力	英語ニュースを聞き、内容についての確に話すことができる。		英語ニュースを聞き、内容についておおむね話すことができる。		英語ニュースを聞き、内容についての確に話すことができない。	
リーディング能力	英文記事(必要語彙数約5000語)を読み、内容に関する質問に正しく回答することができる。		英文記事(必要語彙数約5000語)を読み、内容に関する質問におおむね回答することができる。		英文記事(必要語彙数約5000語)を読み、内容に関する質問に正しく回答することができない。	
ライティング能力	英文記事に関連する社会問題について正しく英作文することができる。		英文記事に関連する社会問題についておおむね英作文することができる。		英文記事に関連する社会問題について正しく英作文することができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	This lecture serves as an practical communicative classes for students to develop English language skills needed to discuss social issues by using audiovisual materials. At the beginning of each class, a special dictation practice is served.					
授業の進め方・方法	The classes are basically in person with some dictation and reading comprehension practices, requiring 2/3 attention at weekly assignment tests. The contents and schedule are as shown below.					
注意点	Students are required to review for the assigned part of handouts for each class, and to practice short essay writing about current social issues.					
学修単位の履修上の注意						
事前学習：英単語調べはもちろん、各章の問題を「提出用ノート」に解答しておき、充実させたノートを提出できるようにしておく。 事後展開学習：授業中に作成した「板書用ノート」をみながら、復習し、クイズやテストに備える。						
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	Class Introduction		To understand what and how to learn communicative English	
		2週	World News I , Dictation Test, Q&A Practice		To understand the expression related to social issues	
		3週	World News II , Dictation Test, Q&A Practice		To understand the expression related to social issues	
		4週	World News III , Dictation Test, Q&A Practice		To understand the expression related to social issues	
		5週	World News IV , Dictation Test, Q&A Practice		To understand the expression related to social issues	
		6週	World News V , Dictation Test, Q&A Practice		To understand the expression related to social issues	
		7週	World News VI , Dictation Test, Q&A Practice		To understand the expression related to social issues	
		8週	World News VII , Dictation Test, Q&A Practice		To understand the expression related to social issues	
	2ndQ	9週	World News VIII , Dictation Test, Q&A Practice		To understand the expression related to social issues	
		10週	World News IX , Dictation Test, Q&A Practice		To understand the expression related to social issues	
		11週	World News X , Dictation Test, Q&A Practice		To understand the expression related to social issues	
		12週	Essay Writing & Discussion		To be assessed each level of understanding	
		13週	How to express each point of views about social issues		To understand the typical patterns of essay writing	
		14週	Final Assignment Test		To be assessed each level of writing	
		15週	Final Essay Writing		To be assessed each level of speaking	

		16週	Review	Finalizing & Evaluations
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標				
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル 授業週
評価割合				
	Weekly Assignment / Class Participation		Essay Writing	合計
総合評価割合	60		40	100
基礎的能力	60		0	60
専門的能力	0		0	0
分野横断的能力	0		40	40

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	異文化交流Ⅲ
科目基礎情報					
科目番号	0008		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	グローバルエンジニア養成教育プログラム (GEP) (ベーシックコース)		対象学年	3	
開設期	集中		週時間数		
教科書/教材	「CLIL Seeing the World through Maps (CLIL 英語と地図で学ぶ世界事情)」、三修社、笹島茂 他 著				
担当教員	朴 槿英				
到達目標					
1. 文化の多様性に気付き、異文化理解に対する意識を高めるとともに、自国の文化との違いを認知することができる。また、本校が提供するイマージョン・プログラム (immersion program) および国際交流プログラムに参加し、仲間と協力してその準備に積極的に取り組むことができる。 2. 異文化の存在を意識し、どのような態度で異文化を受け入れるべきか考え、行動に移すことができる。主に英語を用いてプレゼンテーションおよびビデオ制作をすることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
英語による異文化理解力	地図を通して世界の地理や歴史を英語で十分理解できる。		地図を通して世界の地理や歴史を英語である程度理解できる。		地図を通して世界の地理や歴史を英語で理解できない。
グローバル・コミュニケーション力	様々な地域 (area) の事情について、流暢な英語でコミュニケーションできる。		様々な地域 (area) の事情について、簡単な英語でコミュニケーションできる。		様々な地域 (area) の事情について、英語でコミュニケーションできない。
英語によるクリエイティブな制作力	グループワークによる英語プレゼンテーションおよびビデオ制作ができる。		グループワークによる英語プレゼンテーションまたはビデオ制作ができる。		グループワークによる英語プレゼンテーションまたはビデオ制作ができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	異文化に関するオープンマインドな姿勢でイマージョンプログラムおよび国際交流プログラムに参加し、英語によるプレゼンテーションやコミュニケーションを行うことで実践的なグローバル感覚を身につける。なお、ヨーロッパで普及している理科や社会などの科目内容と言語を統合した学習法、CLIL (Content and Language Integrated Learning) を用いて、地図を題材としながら世界の事情を英語で学び、考え、話し合う。				
授業の進め方・方法	講義、イマージョンプログラムにより、「異文化理解」における3つの構成要素(①態度・②知識・③技能)を理解した上で、各プログラムのテストに従って、グループワークによる英語プレゼンテーションおよび英語ビデオ制作の準備を行う。また、国際交流プログラムへの参加と異文化交流を通して修得した知見をレポートにまとめ提出する。				
注意点	異文化理解に対するオープンマインドな姿勢を有することが必要である。そして実践的な異文化交流を行う対象国に関する基礎知識を事前に習得するなど、積極的な取り組みが必要である。 関連科目: 人文科学系の科目および社会科学系の科目の中、英語および社会、地理、文化に関連する科目 学習指針: 英語コミュニケーション能力の向上のために「聞く」、「話す」練習を行うこと。異文化交流プログラムへの参加に向けて英語による発表資料を作成すること。 自己学習 (事前学習および事後展開学習) 事前学習: 異文化交流を行う対象国に関する基礎知識を事前に調査すること。学校紹介や日本文化に関する英語プレゼンテーションを行うための資料収集、英作文練習、発音練習を行うこと。 事後展開学習: 各異文化交流プログラムを通じて学んだ知識、教養に関する英文報告書を作成すること。				
学修単位の履修上の注意					
授業の属性・履修上の区分					
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応 ☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	Guidance of Lecture Contents and Teaching Methods	To understand how to learn the contents in English	
		2週	Area 1 : Europe Sweets and the House of Habsburg / The European Union	To understand the stories of Habsburg and the European Union	
		3週	Area 2 : Africa The Masai Mara National Reserve / Souvenir Shopping in Africa	To expand the interest and knowledge about Africa	
		4週	Area 3 : The Middle East Holy Places / Strategic Seaway	To enjoy thinking related on the Middle East	
		5週	Area 4 : South Asia Mumbai and Jaipur / Afghanistan	To be critical on the social issues in South Asia	
		6週	Area 5 : Russia and its Neighboring Countries St. Petersburg / Ukraine : Caught between Russia and Europe	To be flexible and to use English for speaking out	
		7週	Area 6 : East Asia Super Sky Railway to Inner Highland / The Two different Faces of Korea	To integrate learning for taking a step forward	
		8週	Area 7 : Southeast Asia A Country of Cultural Diversity / Religious Diversity	To compare cultural and religious diversity	
	2ndQ	9週	Area 8 : North America Country of Immigrants / The American Dream	To understand the history of America	

		10週	Area 9 : Central America and the Caribbean The Panama Canal / Revolution and Socialism	To expand the knowledge about Central America and the Caribbean
		11週	Area 10 : South America Rio de Janeiro / Japanese Immigrants	To understand the history related on Japanese immigrants in South America
		12週	Area 11 : The South Pacific and the Antarctic The Last Unknown Place on the Earth / What is the Antarctic like?	To enjoy learning about the last unknown place on the earth
		13週	Area 12 : Australia and New Zealand A Continent of Modern Cities and Unique Nature / Animals and Plants Unique to Australia and New Zealand	To develop intercultural communicative competence
		14週	Summarizing : Group Presentation & Discussion	To express the knowledge of other countries with intercultural understanding
		15週	Final Assignment	
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		Group Presentation	Assignment / Report	合計	
総合評価割合		50	50	100	
基礎的能力		50	50	100	

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	海外協働研修Ⅲ	
科目基礎情報							
科目番号	0009			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	グローバルエンジニア養成教育プログラム (GEP) (ベーシックコース)			対象学年	3		
開設期	集中			週時間数			
教科書/教材	Original Handouts / 本校で実施している, 国際交流等の報告発表会などが参考となる。						
担当教員	稲田 直久, 朴 槿英						
到達目標							
・ 英語による学問的ディスカッションスキルを深めるとともに, 外国との文化や価値観について自ら調査し, 日本文化との違いについて英語で発表できる。 ・ 母語以外の外国語によるウェビナーなどに参加し, 英語プレゼンテーションおよび質疑応答を行うことができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	異文化に対する理解を深めるとともに, 他者・他国の立場に立ってその価値観の違いを認め, 自国の文化についても紹介ができる。			異文化に対する理解がある。自国の文化について, 簡単な外国語で紹介ができる。		異文化に対する理解が不十分で, 他者・他国の立場に立ってその価値観の違いの認識ができない。自国の文化について, 紹介できない。	
評価項目2	外国語によるコミュニケーションを図ることができる。			外国語によるコミュニケーションを図ることができる。		外国語によるコミュニケーションを図ることができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	海外の教育機関への語学留学, 短期・長期の海外研修, 国際交流・フォーラム・学会・展示会などのプログラムに対する学生の積極的な参加を促すとともに, グローバルマインドの育成, 異文化に対する理解力の向上, 外国語学習への意欲を高めることを目的とする。						
授業の進め方・方法	本校や本校が認めた海外の機関が実施する国際交流プログラムの他, 様々なインターナショナル・プログラムなどにおいて, アクティブな実践活動を行う。 なお, 各自がプログラムの活動目標を設定し, 積極的な態度で臨む必要がある。						
注意点	海外協定校や学校が認める海外機関との国際交流・フォーラム・セミナー・学会・展示会などで活動する事前準備 (活動のために必要な外国語運用能力およびグローバルなマインド, 国際文化に対する基本的な教養を身に備えるなど, 積極的な準備活動が必要である。) 学習指針: 研修先の参加者と積極的に交流し, 工学・技術の分野だけでなく, 文化について学ぶ積極的な姿勢が求められる。 関連科目: 人文科学系の科目および社会科学系の科目の中, 英語および, 日本文化, 世界文化に関連する科目 自己学習 (事前学習および事後展開学習) 事前学習としては, 外国語コミュニケーション能力を身に着けるためのリスニング, スピーキング練習をすること。国際文化に関する基礎知識を事前に習得すること。 事後展開学習としては, 活動を通じて学んだ知識に関する英文報告書を作成すること。						
学修単位の履修上の注意							
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	1. 実施時期 学校に認められた期間 2. 実施期間 合計30 時間以上 3. 研修内容 研修先のプログラムによる (研修先の文化に触れ, 日本語以外の言語による交流や学習がなされること) 4. 研修先 学校が認めた研修先 5. スケジュール 事前に「単位認定申請・認定書」(所定の様式)をグローバル教育センターで受け取る。 研修終了後, 速やかに「研修等終了報告書」(様式任意)「プログラム・要項」等, 研修内容等が記された書類「プログラム修了証書」など, 関連書類を提出する。 研修報告会(12月頃予定)において研修成果を発表する。		・ 英語による学問的ディスカッションスキルを深めるとともに, 外国との文化や価値観について自ら調査し, 日本文化との違いについて英語で発表できる。 ・ 英語によるウェビナーなどに参加し, 英語プレゼンテーションおよび質疑応答を行うことができる。		
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					

		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標				
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル 授業週
評価割合				
	報告書	報告会での発表	合計	
総合評価割合	50	50	100	
基礎的能力	50	50	100	

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	グローバルエンジニアスキル	
科目基礎情報							
科目番号	0010			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	グローバルエンジニア養成教育プログラム (GEP) (ベーシックコース)			対象学年	3		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	Barnaby Newbolt (著) Climate Change						
担当教員	Leigh McDowell						
到達目標							
The ability to use English technical terms, mathematical formulas, units, etc. to freely conduct basic communication in English while working in a specialized field.							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
Reading Skills	Understand the contents of the text accurately.			There are some mistakes, but can understand generally.		Many errors and poor understanding.	
Expression	Express your own ideas accurately.			There are some mistakes, but can express your own ideas generally.		Many errors and difficult to express your own ideas.	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	When working as an engineer or researcher in the science and technology field in the future, it is necessary to smoothly communicate in English. In this lecture, students will learn English vocabulary related to science and technology and related English expressions, and will also be able to express their ideas logically in English on a given topic through individual / pair / group work.						
授業の進め方・方法	Work on language activities focusing on Speaking and listening. Discuss a given topic in pairs or groups to improve their English speaking skills.						
注意点	In order to achieve the above goal, students are required to review the text and review the lessons of the class, and actively engage in English learning.学習指針：地球環境問題に関する知識と理解力が求められる。 関連科目：グローバルチャレンジ、異文化交流、英語科科目 事前学習：英語ネイティブの発音を聞く練習を行うこと。授業で学ぶチャプターの英単語を事前に調べること。 事後展開学習：授業で学んだ内容を理解し、本文の英文音読を行うこと。各話題について英語で意見を述べること。						
学修単位の履修上の注意							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	Guidance		Explain the contents of the course, how to proceed, and marking policy.		
		2週	Keywords for the topic		Learn the outline and keywords of the textbook.		
		3週	Chapter1: What is climate change?		Understand the contents of Chapter 1 and discuss them in English.		
		4週	Chapter2: How does our climate work?		Understand the contents of Chapter 2 and discuss them in English.		
		5週	Chapter3: Getting warmer		Understand the contents of Chapter 3 and discuss them in English.		
		6週	Chapter4: Wetter – and drier		Understand the contents of Chapter 4 and discuss them in English.		
		7週	Chapter5: Extreme weather		Understand the contents of Chapter 5 and discuss them in English.		
		8週	Chapter6: Slow or sudden change?		Understand the contents of Chapter 6 and discuss them in English.		
	2ndQ	9週	Chapter7: How bad will it get?		Understand the contents of Chapter 7 and discuss them in English.		
		10週	Chapter8: Is it all bad?		Understand the contents of Chapter 8 and discuss them in English.		
		11週	Chapter9: Carbon		Understand the contents of Chapter 9 and discuss them in English.		
		12週	Chapter10: What are our governments doing?		Understand the contents of Chapter 10 and discuss them in English.		
		13週	Chapter11: What can you do?		Understand the contents of Chapter 11 and discuss them in English.		
		14週	Review		Understand the contents of Chapter 1~11		
		15週					
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
		Weekly Assianment		Class Participation		合計	

総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	80	20	100

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	英語アクティブラーニング I
科目基礎情報					
科目番号	0007		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	グローバルエンジニア養成教育プログラム (GEP) (ベーシックコース)		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	1	
教科書/教材	ALC NetAcademy Next				
担当教員	朴 槿英				
到達目標					
グローバル人材に求められる英語力を身につけるため、オンライン学習ソフト（ALC NetAcademy Next）などにおける自学自習を積極的に行い、期間内に指定のコースを修了する。尚、実用英語技能検定試験など資格試験を受験し、想定レベル（英語検定試験準2 級合格、もしくは、TOEIC 400 点以上）に到達することを目指す。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1 指定コースにおける学習レベル	計画的に自学自習を行い、指定のコースを修了できた。尚、英語の資格試験を受験し、想定レベルに到達することができた。		自学自習を行い、指定のコースを修了できた。		自学自習を行ったものの、指定のコースを修了できなかった。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	技能審査の成果にもとづく単位認定については、教育課程編成の多様化・弾力化の一つの方策として、平成5年3月の学校教育法施行規則の改正により制度化された。この制度の円滑な実施を図るために、選択教科・科目の幅を拡大して、多様で弾力的な教育課程を編成している。これにより、学校外での学修を30単位を超えない範囲で当該高専での授業科目の修得とみなし、単位の修得を認定することが可能となった。そして実用英語技能検定試験（実用英検）などについて、自主的判断に基づき単位が認められることになった。				
授業の進め方・方法	「高等専門学校が単位の修得を認定できる学修を定める件（告示）」でいう、技能審査の認定に関する規則による文部科学大臣の認定を受けていないTOEIC については、受講者の取り組み状況（学習内容及び学習時間等）を示すレポート等の提出をもって、それぞれ、以下のスコアを目安とする学修に対する評価を別途行うことにより、単位認定するものとする。				
注意点	関連科目：英語関連科目 学習指針：英語資格試験の問題を通して、抜け落ちている基礎的な英単語力や英文法力を補強していく。 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習：学ぶ習慣を身につけてほしい。そのため、家庭での日々の英語学習に重点が置かれることになる。学会で用いられるキーワードに基づいて積極的に学習に取り組むこと。 事後展開学習：英語資格試験を受験し、想定レベルに到達すること。想定レベルに到達した後は、個別にレベルの段階的に上げ、継続的に学習に取り組む積極的な学習態度が望ましい。				
学修単位の履修上の注意					
授業の属性・履修上の区分					
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応	
☐ 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	単位認定について： ・単位認定のための申請を行うことが必須である。 ・例年1月末に申込期間を設定し、学生には掲示板にて公示されるので、1月に入って掲示板を確認すること。 ・コース修了を証明する書類を申請用紙に添えてグローバル教育センターに提出すること。 ・提出された書類の総合評価が60%以上に達していること。	・計画的に自学自習を行い、指定のコースを修了する。 ・英語資格試験を受験し、想定レベルに到達する。 ・英語検定試験準2 級合格、もしくは、TOEIC 400 点以上を取得すること。	
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			
		12週			
		13週			
		14週			
		15週			
		16週			
後期	3rdQ	1週			
		2週			

		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		自学自習の取り組み状況	英語資格試験	合計	
総合評価割合		60	40	100	
基礎的能力		60	40	100	

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	英語アクティブラーニングⅡ	
科目基礎情報							
科目番号		0008		科目区分	一般 / 選択		
授業形態		演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科		グローバルエンジニア養成教育プログラム (GEP) (ベーシックコース)		対象学年	4		
開設期		通年		週時間数	1		
教科書/教材		ALC NetAcademy Next					
担当教員		朴 槿英					
到達目標							
グローバル人材に求められる英語力を身につけるため、オンライン学習ソフト（ALC NetAcademy Next）などにおける自学自習を積極的に行い、期間内に指定のコースを修了する。尚、実用英語技能検定試験など資格試験を受験し、想定レベル（英語検定試験2 級合格、もしくは、TOEIC 550 点以上）に到達することを目指す。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		計画的に自学自習を行い、指定のコースを修了できた。尚、資格試験で想定レベルに到達できた。		自学自習を行い、指定のコースを修了できた。		自学自習を行ったものの、指定のコースを修了できなかった。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		技能審査の成果にもとづく単位認定については、教育課程編成の多様化・弾力化の一つの方策として、平成5年3月の学校教育法施行規則の改正により制度化された。この制度の円滑な実施を図るために、選択教科・科目の幅を拡大して、多様で弾力的な教育課程を編成している。これにより、学校外での学修を30単位を超えない範囲で当該高専での授業科目の修得とみなし、単位の修得を認定することが可能となった。そして実用英語技能検定試験（実用英検）などについて、自主的判断に基づき単位が認められることになった。					
授業の進め方・方法		「高等専門学校が単位の修得を認定できる学修を定める件（告示）」でいう、技能審査の認定に関する規則による文部科学大臣の認定を受けていないTOEIC については、受講者の取り組み状況（学習内容及び学習時間等）を示すレポート等の提出をもって、それぞれ、以下のスコアを目安とする学修に対する評価を別途行うことにより、単位認定するものとする。					
注意点		英語アクティブラーニングⅠを履修していることが英語アクティブラーニングⅡの履修条件となる。 関連科目：英語アクティブラーニングⅠ 学習指針：英語資格試験の問題を通して、抜け落ちている基礎的な英単語力や英文法力を補強していく。 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習：学ぶ習慣を身につけてほしい。そのため、家庭での日々の英語学習に重点が置かれることになる。学会で用いられるキーワードに基づいて積極的に学習に取り組むこと。 事後展開学習：英語資格試験を受験し、想定レベル（英語検定試験2 級合格、もしくは、TOEIC 550 点以上）に到達すること。想定レベルに到達した後は、個別にレベルの段階的に上げ、継続的に学習に取り組む積極的な学習態度が望ましい。					
学修単位の履修上の注意							
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	単位認定について： ・履修申請時に英語アクティブラーニングⅠを履修していることが必須条件となる。 ・単位認定のための申請を行うことが必須である。 ・例年1月末に申込期間を設定し、学生には掲示板にて公示されるので、1月に入って掲示板を確認すること。 ・コース修了を証明する書類を申請用紙に添えてグローバル教育センターに提出すること。 ・提出された書類の総合評価が60%以上に達していること。		・計画的に自学自習を行い、指定のコースを修了することができる。 ・英語資格試験を受験し、想定レベルに到達する。 ・英語検定試験2 級合格、もしくは、TOEIC 550 点以上を取得すること。		
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
後期	3rdQ	1週					
		2週					

		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		自学自習の取り組み状況	英語資格試験	合計	
総合評価割合		60	40	100	
基礎的能力		60	40	100	

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	グローバルコミュニケーション
科目基礎情報						
科目番号	0009		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	グローバルエンジニア養成教育プログラム (GEP) (ベーシックコース)		対象学年	4		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	Original Handouts					
担当教員	朴 槿英					
到達目標						
This lecture aims to encourage students to express their thoughts related to various social issues as well as to develop listening, speaking, reading, and writing skills needed to discuss in English fluently. 本講義では、英語で流暢に話し合うために必要なリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングスキルを伸ばし、様々な社会問題に関する考えを述べる力を養うことを目的とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
リスニング能力	英語ニュース(必要語彙数約5000語)を聞き、正しく理解することができる。		英語ニュース(必要語彙数約5000語)を聞き、おおむね理解することができる。		英語ニュース(必要語彙数約5000語)を聞き、正しく理解することができない。	
スピーキング能力	英語ニュースを聞き、内容についての確に話すことができる。		英語ニュースを聞き、内容についておおむね話すことができる。		英語ニュースを聞き、内容についての確に話すことができない。	
リーディング能力	英文記事(必要語彙数約5000語)を読み、内容に関する質問に正しく回答することができる。		英文記事(必要語彙数約5000語)を読み、内容に関する質問におおむね回答することができる。		英文記事(必要語彙数約5000語)を読み、内容に関する質問に正しく回答することができない。	
ライティング能力	英文記事に関連する社会問題について正しく英作文することができる。		英文記事に関連する社会問題についておおむね英作文することができる。		英文記事に関連する社会問題について正しく英作文することができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	This lecture serves as an practical communicative classes for students to develop English language skills needed to discuss social issues by using audiovisual materials. At the beginning of each class, a special dictation practice is served.					
授業の進め方・方法	The classes are basically in person with some dictation and reading comprehension practices, requiring 2/3 attention at weekly assignment tests. The contents and schedule are as shown below.					
注意点	Students are required to review for the assigned part of handouts for each class, and to practice short essay writing about current social issues.					
学修単位の履修上の注意						
事前学習：英単語調べはもちろん、各章の問題を「提出用ノート」に解答しておき、充実させたノートを提出できるようにしておく。 事後展開学習：授業中に作成した「板書用ノート」をみながら、復習し、クイズやテストに備える。						
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	Class Introduction		To understand what and how to learn communicative English	
		2週	World News I , Dictation Test, Q&A Practice		To understand the expression related to social issues	
		3週	World News II , Dictation Test, Q&A Practice		To understand the expression related to social issues	
		4週	World News III , Dictation Test, Q&A Practice		To understand the expression related to social issues	
		5週	World News IV , Dictation Test, Q&A Practice		To understand the expression related to social issues	
		6週	World News V , Dictation Test, Q&A Practice		To understand the expression related to social issues	
		7週	World News VI , Dictation Test, Q&A Practice		To understand the expression related to social issues	
		8週	World News VII , Dictation Test, Q&A Practice		To understand the expression related to social issues	
	2ndQ	9週	World News VIII , Dictation Test, Q&A Practice		To understand the expression related to social issues	
		10週	World News IX , Dictation Test, Q&A Practice		To understand the expression related to social issues	
		11週	World News X , Dictation Test, Q&A Practice		To understand the expression related to social issues	
		12週	Essay Writing & Discussion		To be assessed each level of understanding	
		13週	How to express each point of views about social issues		To understand the typical patterns of essay writing	
		14週	Final Assignment Test		To be assessed each level of writing	
		15週	Final Essay Writing		To be assessed each level of speaking	

		16週	Review	Finalizing & Evaluations
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標				
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル 授業週
評価割合				
	Weekly Assignment / Class Participation		Essay Writing	合計
総合評価割合	60		40	100
基礎的能力	60		0	60
専門的能力	0		0	0
分野横断的能力	0		40	40

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	異文化交流Ⅳ
科目基礎情報					
科目番号	0010		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	グローバルエンジニア養成教育プログラム (GEP) (ベーシックコース)		対象学年	4	
開設期	集中		週時間数		
教科書/教材	「CLIL Seeing the World through Maps (CLIL 英語と地図で学ぶ世界事情)」、三修社、笹島茂 他 著				
担当教員	朴 槿英				
到達目標					
1. 文化の多様性に気付き、異文化理解に対する意識を高めるとともに、自国の文化との違いを認知することができる。また、本校が提供するイマージョン・プログラム (immersion program) および国際交流プログラムに参加し、仲間と協力してその準備に積極的に取り組むことができる。 2. 異文化の存在を意識し、どのような態度で異文化を受け入れるべきか考え、行動に移すことができる。主に英語を用いてプレゼンテーションおよびビデオ制作をすることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
英語による異文化理解力	地図を通して世界の地理や歴史を英語で十分理解できる。		地図を通して世界の地理や歴史を英語である程度理解できる。		地図を通して世界の地理や歴史を英語で理解できない。
グローバル・コミュニケーション力	様々な地域 (area) の事情について、流暢な英語でコミュニケーションできる。		様々な地域 (area) の事情について、簡単な英語でコミュニケーションできる。		様々な地域 (area) の事情について、英語でコミュニケーションできない。
英語によるクリエイティブな制作力	グループワークによる英語プレゼンテーションおよびビデオ制作ができる。		グループワークによる英語プレゼンテーションまたはビデオ制作ができる。		グループワークによる英語プレゼンテーションまたはビデオ制作ができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	異文化に関するオープンマインドな姿勢でイマージョンプログラムおよび国際交流プログラムに参加し、英語によるプレゼンテーションやコミュニケーションを行うことで実践的なグローバル感覚を身につける。なお、ヨーロッパで普及している理科や社会などの科目内容と言語を統合した学習法、CLIL (Content and Language Integrated Learning) を用いて、地図を題材としながら世界の事情を英語で学び、考え、話し合う。				
授業の進め方・方法	講義、イマージョンプログラムにより、「異文化理解」における3つの構成要素(①態度・②知識・③技能)を理解した上で、各プログラムのテストに従って、グループワークによる英語プレゼンテーションおよび英語ビデオ制作の準備を行う。また、国際交流プログラムへの参加と異文化交流を通して修得した知見をレポートにまとめ提出する。				
注意点	異文化理解に対するオープンマインドな姿勢を有することが必要である。そして実践的な異文化交流を行う対象国に関する基礎知識を事前に習得するなど、積極的な取り組みが必要である。 関連科目: 人文科学系の科目および社会科学系の科目の中、英語および社会、地理、文化に関連する科目 学習指針: 英語コミュニケーション能力の向上のために「聞く」、「話す」練習を行うこと。異文化交流プログラムへの参加に向けて英語による発表資料を作成すること。 自己学習 (事前学習および事後展開学習) 事前学習: 異文化交流を行う対象国に関する基礎知識を事前に調査すること。学校紹介や日本文化に関する英語プレゼンテーションを行うための資料収集、英作文練習、発音練習を行うこと。 事後展開学習: 各異文化交流プログラムを通じて学んだ知識、教養に関する英文報告書を作成すること。				
学修単位の履修上の注意					
授業の属性・履修上の区分					
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応 ☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	Guidance of Lecture Contents and Teaching Methods	To understand how to learn the contents in English	
		2週	Area 1 : Europe Sweets and the House of Habsburg / The European Union	To understand the stories of Habsburg and the European Union	
		3週	Area 2 : Africa The Masai Mara National Reserve / Souvenir Shopping in Africa	To expand the interest and knowledge about Africa	
		4週	Area 3 : The Middle East Holy Places / Strategic Seaway	To enjoy thinking related on the Middle East	
		5週	Area 4 : South Asia Mumbai and Jaipur / Afghanistan	To be critical on the social issues in South Asia	
		6週	Area 5 : Russia and its Neighboring Countries St. Petersburg / Ukraine : Caught between Russia and Europe	To be flexible and to use English for speaking out	
		7週	Area 6 : East Asia Super Sky Railway to Inner Highland / The Two different Faces of Korea	To integrate learning for taking a step forward	
		8週	Area 7 : Southeast Asia A Country of Cultural Diversity / Religious Diversity	To compare cultural and religious diversity	
	2ndQ	9週	Area 8 : North America Country of Immigrants / The American Dream	To understand the history of America	

		10週	Area 9 : Central America and the Caribbean The Panama Canal / Revolution and Socialism	To expand the knowledge about Central America and the Caribbean
		11週	Area 10 : South America Rio de Janeiro / Japanese Immigrants	To understand the history related on Japanese immigrants in South America
		12週	Area 11 : The South Pacific and the Antarctic The Last Unknown Place on the Earth / What is the Antarctic like?	To enjoy learning about the last unknown place on the earth
		13週	Area 12 : Australia and New Zealand A Continent of Modern Cities and Unique Nature / Animals and Plants Unique to Australia and New Zealand	To develop intercultural communicative competence
		14週	Summarizing : Group Presentation & Discussion	To express the knowledge of other countries with intercultural understanding
		15週	Final Assignment	
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		Group Presentation	Assignment / Report	合計	
総合評価割合		50	50	100	
基礎的能力		50	50	100	

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	海外協働研修Ⅳ
科目基礎情報					
科目番号	0011		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	グローバルエンジニア養成教育プログラム (GEP) (ベーシックコース)		対象学年	4	
開設期	集中		週時間数		
教科書/教材	Original Handouts / 本校で実施している, 国際交流等の報告発表会などが参考となる。				
担当教員	稲田 直久,朴 槿英				
到達目標					
・英語による学問的ディスカッションスキルを深めるとともに, 外国との文化や価値観について自ら調査し, 日本文化との違いについて英語で発表できる。 ・母語以外の外国語によるウェビナーなどに参加し, 英語プレゼンテーションおよび質疑応答を行うことができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	異文化に対する理解を深めるとともに、他者・他国の立場に立ってその価値観の違いを認め、自国の文化についても紹介ができる。		異文化に対する理解がある。 自国の文化について、簡単な外国語で紹介ができる。		異文化に対する理解が不十分で、他者・他国の立場に立ってその価値観の違いの認識ができない。 自国の文化について、紹介できない。
評価項目2	外国語によるコミュニケーションを図ることができる。		外国語によるコミュニケーションを図ることができる。		外国語によるコミュニケーションを図ることができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	海外の教育機関への語学留学, 短期・長期の海外研修, 国際交流・フォーラム・学会・展示会などのプログラムに対する学生の積極的な参加を促すとともに, グローバルマインドの育成, 異文化に対する理解力の向上, 外国語学習への意欲を高めることを目的とする。				
授業の進め方・方法	本校や本校が認めた海外の機関が実施する国際交流プログラムの他, 様々なインターナショナル・プログラムなどにおいて, アクティブな実践活動を行う。 なお, 各自がプログラムの活動目標を設定し, 積極的な態度で臨む必要がある。				
注意点	海外協定校や学校が認める海外機関との国際交流・フォーラム・セミナー・学会・展示会などで活動する事前準備（活動のために必要な外国語運用能力およびグローバルなマインド、国際文化に対する基本的な教養を身に備えるなど、積極的な準備活動が必要である。） 学習指針：研修先の参加者と積極的に交流し, 工学・技術の分野だけでなく, 文化について学ぶ積極的な姿勢が求められる。 関連科目：人文科学系の科目および社会科学系の科目の中、英語および、日本文化、世界文化に関連する科目 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習としては、外国語コミュニケーション能力を身に着けるためのリスニング、スピーキング練習をすること。国際文化に関する基礎知識を事前に習得すること。 事後展開学習としては、活動を通じて学んだ知識に関する英文報告書を作成すること。				
学修単位の履修上の注意					
授業の属性・履修上の区分					
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応	
☐ 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	1. 実施時期 学校に認められた期間 2. 実施期間 合計30 時間以上 3. 研修内容 研修先のプログラムによる (研修先の文化に触れ, 日本語以外の言語による交流や学習がなされること) 4. 研修先 学校が認めた研修先 5. スケジュール 事前に「単位認定申請・認定書」（所定の様式）をグローバル教育センターで受け取る。 研修終了後, 速やかに 「研修等終了報告書」（様式任意） 「プログラム・要項」等, 研修内容等が記された書類 「プログラム修了証書」など、関連書類を提出する。 研修報告会（12月頃予定）において研修成果を発表する。	・英語による学問的ディスカッションスキルを深めるとともに, 外国との文化や価値観について自ら調査し, 日本文化との違いについて英語で発表できる。 ・英語によるウェビナーなどに参加し, 英語プレゼンテーションおよび質疑応答を行うことができる。	
		2週			
		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
	2ndQ	9週			
		10週			
		11週			

		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標				
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル 授業週
評価割合				
	報告書		報告会での発表	合計
総合評価割合	50		50	100
基礎的能力	50		50	100

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	グローバルエンジニアスキル	
科目基礎情報							
科目番号	0012			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	グローバルエンジニア養成教育プログラム (GEP) (ベーシックコース)			対象学年	4		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	Barnaby Newbolt (著) Climate Change						
担当教員	Leigh McDowell						
到達目標							
The ability to use English technical terms, mathematical formulas, units, etc. to freely conduct basic communication in English while working in a specialized field.							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
Reading Skills	Understand the contents of the text accurately.			There are some mistakes, but can understand generally.		Many errors and poor understanding.	
Expression	Express your own ideas accurately.			There are some mistakes, but can express your own ideas generally.		Many errors and difficult to express your own ideas.	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	When working as an engineer or researcher in the science and technology field in the future, it is necessary to smoothly communicate in English. In this lecture, students will learn English vocabulary related to science and technology and related English expressions, and will also be able to express their ideas logically in English on a given topic through individual / pair / group work.						
授業の進め方・方法	Work on language activities focusing on Speaking and listening. Discuss a given topic in pairs or groups to improve their English speaking skills.						
注意点	In order to achieve the above goal, students are required to review the text and review the lessons of the class, and actively engage in English learning.学習指針：地球環境問題に関する知識と理解力が求められる。 関連科目：グローバルチャレンジ、異文化交流、英語科科目 事前学習：英語ネイティブの発音を聞く練習を行うこと。授業で学ぶチャプターの英単語を事前に調べること。 事後展開学習：授業で学んだ内容を理解し、本文の英文音読を行うこと。各話題について英語で意見を述べること。						
学修単位の履修上の注意							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	Guidance		Explain the contents of the course, how to proceed, and marking policy.		
		2週	Keywords for the topic		Learn the outline and keywords of the textbook.		
		3週	Chapter1: What is climate change?		Understand the contents of Chapter 1 and discuss them in English.		
		4週	Chapter2: How does our climate work?		Understand the contents of Chapter 2 and discuss them in English.		
		5週	Chapter3: Getting warmer		Understand the contents of Chapter 3 and discuss them in English.		
		6週	Chapter4: Wetter – and drier		Understand the contents of Chapter 4 and discuss them in English.		
		7週	Chapter5: Extreme weather		Understand the contents of Chapter 5 and discuss them in English.		
		8週	Chapter6: Slow or sudden change?		Understand the contents of Chapter 6 and discuss them in English.		
	2ndQ	9週	Chapter7: How bad will it get?		Understand the contents of Chapter 7 and discuss them in English.		
		10週	Chapter8: Is it all bad?		Understand the contents of Chapter 8 and discuss them in English.		
		11週	Chapter9: Carbon		Understand the contents of Chapter 9 and discuss them in English.		
		12週	Chapter10: What are our governments doing?		Understand the contents of Chapter 10 and discuss them in English.		
		13週	Chapter11: What can you do?		Understand the contents of Chapter 11 and discuss them in English.		
		14週	Review		Understand the contents of Chapter 1~11		
		15週					
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
		Weekly Assianment		Class Participation		合計	

総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	80	20	100

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	英語アクティブラーニングⅡ	
科目基礎情報							
科目番号	0007			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	グローバルエンジニア養成教育プログラム (GEP) (ベーシックコース)			対象学年	5		
開設期	通年			週時間数	1		
教科書/教材	ALC NetAcademy Next						
担当教員	朴 槿英						
到達目標							
グローバル人材に求められる英語力を身につけるため、オンライン学習ソフト（ALC NetAcademy Next）などにおける自学自習を積極的に行い、期間内に指定のコースを修了する。尚、実用英語技能検定試験など資格試験を受験し、想定レベル（英語検定試験2 級合格、もしくは、TOEIC 550 点以上）に到達することを目指す。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		計画的に自学自習を行い、指定のコースを修了できた。尚、資格試験で想定レベルに到達できた。		自学自習を行い、指定のコースを修了できた。		自学自習を行ったものの、指定のコースを修了できなかった。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	技能審査の成果にもとづく単位認定については、教育課程編成の多様化・弾力化の一つの方策として、平成5年3月の学校教育法施行規則の改正により制度化された。この制度の円滑な実施を図るために、選択教科・科目の幅を拡大して、多様で弾力的な教育課程を編成している。これにより、学校外での学修を30単位を超えない範囲で当該高専での授業科目の修得とみなし、単位の修得を認定することが可能となった。そして実用英語技能検定試験（実用英検）などについて、自主的判断に基づき単位が認められることになった。						
授業の進め方・方法	「高等専門学校が単位の修得を認定できる学修を定める件（告示）」でいう、技能審査の認定に関する規則による文部科学大臣の認定を受けていないTOEIC については、受講者の取り組み状況（学習内容及び学習時間等）を示すレポート等の提出をもって、それぞれ、以下のスコアを目安とする学修に対する評価を別途行うことにより、単位認定するものとする。						
注意点	英語アクティブラーニングⅠを履修していることが英語アクティブラーニングⅡの履修条件となる。 関連科目：英語アクティブラーニングⅠ 学習指針：英語資格試験の問題を通して、抜け落ちている基礎的な英単語力や英文法力を補強していく。 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習：学ぶ習慣を身につけてほしい。そのため、家庭での日々の英語学習に重点が置かれることになる。学会で用いられるキーワードに基づいて積極的に学習に取り組むこと。 事後展開学習：英語資格試験を受験し、想定レベル（英語検定試験2 級合格、もしくは、TOEIC 550 点以上）に到達すること。想定レベルに到達した後は、個別にレベルの段階的に上げ、継続的に学習に取り組む積極的な学習態度が望ましい。						
学修単位の履修上の注意							
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	単位認定について： ・履修申請時に英語アクティブラーニングⅠを履修していることが必須条件となる。 ・単位認定のための申請を行うことが必須である。 ・例年1月末に申込期間を設定し、学生には掲示板にて公示されるので、1月に入って掲示板を確認すること。 ・コース修了を証明する書類を申請用紙に添えてグローバル教育センターに提出すること。 ・提出された書類の総合評価が60%以上に達していること。		・計画的に自学自習を行い、指定のコースを修了することができる。 ・英語資格試験を受験し、想定レベルに到達する。 ・英語検定試験2 級合格、もしくは、TOEIC 550 点以上を取得すること。		
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
後期	3rdQ	1週					
		2週					

		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		自学自習の取り組み状況	英語資格試験	合計	
総合評価割合		60	40	100	
基礎的能力		60	40	100	

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	グローバルコミュニケーション
科目基礎情報						
科目番号	0008		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	グローバルエンジニア養成教育プログラム (GEP) (ベーシックコース)		対象学年	5		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	Original Handouts					
担当教員	朴 槿英					
到達目標						
This lecture aims to encourage students to express their thoughts related to various social issues as well as to develop listening, speaking, reading, and writing skills needed to discuss in English fluently. 本講義では、英語で流暢に話し合うために必要なリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングスキルを伸ばし、様々な社会問題に関する考えを述べる力を養うことを目的とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
リスニング能力	英語ニュース(必要語彙数約5000語)を聞き、正しく理解することができる。		英語ニュース(必要語彙数約5000語)を聞き、おおむね理解することができる。		英語ニュース(必要語彙数約5000語)を聞き、正しく理解することができない。	
スピーキング能力	英語ニュースを聞き、内容についての確に話すことができる。		英語ニュースを聞き、内容についておおむね話すことができる。		英語ニュースを聞き、内容についての確に話すことができない。	
リーディング能力	英文記事(必要語彙数約5000語)を読み、内容に関する質問に正しく回答することができる。		英文記事(必要語彙数約5000語)を読み、内容に関する質問におおむね回答することができる。		英文記事(必要語彙数約5000語)を読み、内容に関する質問に正しく回答することができない。	
ライティング能力	英文記事に関連する社会問題について正しく英作文することができる。		英文記事に関連する社会問題についておおむね英作文することができる。		英文記事に関連する社会問題について正しく英作文することができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	This lecture serves as an practical communicative classes for students to develop English language skills needed to discuss social issues by using audiovisual materials. At the beginning of each class, a special dictation practice is served.					
授業の進め方・方法	The classes are basically in person with some dictation and reading comprehension practices, requiring 2/3 attention at weekly assignment tests. The contents and schedule are as shown below.					
注意点	Students are required to review for the assigned part of handouts for each class, and to practice short essay writing about current social issues.					
学修単位の履修上の注意						
事前学習：英単語調べはもちろん、各章の問題を「提出用ノート」に解答しておき、充実させたノートを提出できるようにしておく。 事後展開学習：授業中に作成した「板書用ノート」をみながら、復習し、クイズやテストに備える。						
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	Class Introduction		To understand what and how to learn communicative English	
		2週	World News I , Dictation Test, Q&A Practice		To understand the expression related to social issues	
		3週	World News II , Dictation Test, Q&A Practice		To understand the expression related to social issues	
		4週	World News III , Dictation Test, Q&A Practice		To understand the expression related to social issues	
		5週	World News IV , Dictation Test, Q&A Practice		To understand the expression related to social issues	
		6週	World News V , Dictation Test, Q&A Practice		To understand the expression related to social issues	
		7週	World News VI , Dictation Test, Q&A Practice		To understand the expression related to social issues	
		8週	World News VII , Dictation Test, Q&A Practice		To understand the expression related to social issues	
	2ndQ	9週	World News VIII , Dictation Test, Q&A Practice		To understand the expression related to social issues	
		10週	World News IX , Dictation Test, Q&A Practice		To understand the expression related to social issues	
		11週	World News X , Dictation Test, Q&A Practice		To understand the expression related to social issues	
		12週	Essay Writing & Discussion		To be assessed each level of understanding	
		13週	How to express each point of views about social issues		To understand the typical patterns of essay writing	
		14週	Final Assignment Test		To be assessed each level of writing	
		15週	Final Essay Writing		To be assessed each level of speaking	

		16週	Review	Finalizing & Evaluations
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標				
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル 授業週
評価割合				
	Weekly Assignment / Class Participation		Essay Writing	合計
総合評価割合	60		40	100
基礎的能力	60		0	60
専門的能力	0		0	0
分野横断的能力	0		40	40

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	異文化交流Ⅴ	
科目基礎情報							
科目番号	0009			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	グローバルエンジニア養成教育プログラム (GEP) (ベーシックコース)			対象学年	5		
開設期	集中			週時間数			
教科書/教材	「CLIL Seeing the World through Maps (CLIL 英語と地図で学ぶ世界事情)」、三修社、笹島茂 他 著						
担当教員	朴 槿英						
到達目標							
1. 文化の多様性に気付き、異文化理解に対する意識を高めるとともに、自国の文化との違いを認知することができる。また、本校が提供するイマージョン・プログラム (immersion program) および国際交流プログラムに参加し、仲間と協力してその準備に積極的に取り組むことができる。 2. 異文化の存在を意識し、どのような態度で異文化を受け入れるべきか考え、行動に移すことができる。主に英語を用いてプレゼンテーションおよびビデオ制作をすることができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
英語による異文化理解力	地図を通して世界の地理や歴史を英語で十分理解できる。		地図を通して世界の地理や歴史を英語である程度理解できる。		地図を通して世界の地理や歴史を英語で理解できない。		
グローバル・コミュニケーション力	様々な地域 (area) の事情について、流暢な英語でコミュニケーションできる。		様々な地域 (area) の事情について、簡単な英語でコミュニケーションできる。		様々な地域 (area) の事情について、英語でコミュニケーションできない。		
英語によるクリエイティブな制作力	グループワークによる英語プレゼンテーションおよびビデオ制作ができる。		グループワークによる英語プレゼンテーションまたはビデオ制作ができる。		グループワークによる英語プレゼンテーションまたはビデオ制作ができない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	異文化に関するオープンマインドな姿勢でイマージョンプログラムおよび国際交流プログラムに参加し、英語によるプレゼンテーションやコミュニケーションを行うことで実践的なグローバル感覚を身につける。なお、ヨーロッパで普及している理科や社会などの科目内容と言語を統合した学習法、CLIL (Content and Language Integrated Learning) を用いて、地図を題材としながら世界の事情を英語で学び、考え、話し合う。						
授業の進め方・方法	講義、イマージョンプログラムにより、「異文化理解」における3つの構成要素(①態度・②知識・③技能)を理解した上で、各プログラムのテストに従って、グループワークによる英語プレゼンテーションおよび英語ビデオ制作の準備を行う。また、国際交流プログラムへの参加と異文化交流を通して修得した知見をレポートにまとめ提出する。						
注意点	異文化理解に対するオープンマインドな姿勢を有することが必要である。そして実践的な異文化交流を行う対象国に関する基礎知識を事前に習得するなど、積極的な取り組みが必要である。 関連科目: 人文科学系の科目および社会科学系の科目の中、英語および社会、地理、文化に関連する科目 学習指針: 英語コミュニケーション能力の向上のために「聞く」、「話す」練習を行うこと。異文化交流プログラムへの参加に向けて英語による発表資料を作成すること。 自己学習 (事前学習および事後展開学習) 事前学習: 異文化交流を行う対象国に関する基礎知識を事前に調査すること。学校紹介や日本文化に関する英語プレゼンテーションを行うための資料収集、英作文練習、発音練習を行うこと。 事後展開学習: 各異文化交流プログラムを通じて学んだ知識、教養に関する英文報告書を作成すること。						
学修単位の履修上の注意							
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	Guidance of Lecture Contents and Teaching Methods		To understand how to learn the contents in English		
		2週	Area 1 : Europe Sweets and the House of Habsburg / The European Union		To understand the stories of Habsburg and the European Union		
		3週	Area 2 : Africa The Masai Mara National Reserve / Souvenir Shopping in Africa		To expand the interest and knowledge about Africa		
		4週	Area 3 : The Middle East Holy Places / Strategic Seaway		To enjoy thinking related on the Middle East		
		5週	Area 4 : South Asia Mumbai and Jaipur / Afghanistan		To be critical on the social issues in South Asia		
		6週	Area 5 : Russia and its Neighboring Countries St. Petersburg / Ukraine : Caught between Russia and Europe		To be flexible and to use English for speaking out		
		7週	Area 6 : East Asia Super Sky Railway to Inner Highland / The Two different Faces of Korea		To integrate learning for taking a step forward		
		8週	Area 7 : Southeast Asia A Country of Cultural Diversity / Religious Diversity		To compare cultural and religious diversity		
	2ndQ	9週	Area 8 : North America Country of Immigrants / The American Dream		To understand the history of America		

		10週	Area 9 : Central America and the Caribbean The Panama Canal / Revolution and Socialism	To expand the knowledge about Central America and the Caribbean
		11週	Area 10 : South America Rio de Janeiro / Japanese Immigrants	To understand the history related on Japanese immigrants in South America
		12週	Area 11 : The South Pacific and the Antarctic The Last Unknown Place on the Earth / What is the Antarctic like?	To enjoy learning about the last unknown place on the earth
		13週	Area 12 : Australia and New Zealand A Continent of Modern Cities and Unique Nature / Animals and Plants Unique to Australia and New Zealand	To develop intercultural communicative competence
		14週	Summarizing : Group Presentation & Discussion	To express the knowledge of other countries with intercultural understanding
		15週	Final Assignment	
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		Group Presentation	Assignment / Report	合計	
総合評価割合		50	50	100	
基礎的能力		50	50	100	

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	海外協働研修Ⅴ
科目基礎情報					
科目番号	0010		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	グローバルエンジニア養成教育プログラム (GEP) (ベーシックコース)		対象学年	5	
開設期	集中		週時間数		
教科書/教材	「CLIL Seeing the World through Maps (CLIL 英語と地図で学ぶ世界事情)」、三修社、笹島茂 他 著				
担当教員	稲田 直久,朴 槿英				
到達目標					
1. 文化の多様性に気付き、異文化理解に対する意識を高めるとともに、自国の文化との違いを認知することができる。また、本校が提供するイマージョン・プログラム (immersion program) および国際交流プログラムに参加し、仲間と協力してその準備に積極的に取り組むことができる。 2. 異文化の存在を意識し、どのような態度で異文化を受け入れるべきか考え、行動に移すことができる。主に英語を用いてプレゼンテーションおよびビデオ制作をすることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
英語による異文化理解力	地図を通して世界の地理や歴史を英語で十分理解できる。		地図を通して世界の地理や歴史を英語である程度理解できる。		地図を通して世界の地理や歴史を英語で理解できない。
グローバル・コミュニケーション力	様々な地域 (area) の事情について、流暢な英語でコミュニケーションできる。		様々な地域 (area) の事情について、簡単な英語でコミュニケーションできる。		様々な地域 (area) の事情について、英語でコミュニケーションできない。
英語によるクリエイティブな制作力	グループワークによる英語プレゼンテーションおよびビデオ制作ができる。		グループワークによる英語プレゼンテーションまたはビデオ制作ができる。		グループワークによる英語プレゼンテーションまたはビデオ制作ができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	異文化に関するオープンマインドな姿勢でイマージョンプログラムおよび国際交流プログラムに参加し、英語によるプレゼンテーションやコミュニケーションを行うことで実践的なグローバル感覚を身につける。なお、ヨーロッパで普及している理科や社会などの科目内容と言語を統合した学習法、CLIL (Content and Language Integrated Learning) を用いて、地図を題材としながら世界の事情を英語で学び、考え、話し合う。				
授業の進め方・方法	講義、イマージョンプログラムにより、「異文化理解」における3つの構成要素(①態度・②知識・③技能)を理解した上で、各プログラムのテストに従って、グループワークによる英語プレゼンテーションおよび英語ビデオ制作の準備を行う。また、国際交流プログラムへの参加と異文化交流を通して修得した知見をレポートにまとめ提出する。				
注意点	異文化理解に対するオープンマインドな姿勢を有することが必要である。そして実践的な異文化交流を行う対象国に関する基礎知識を事前に習得するなど、積極的な取り組みが必要である。 関連科目：人文科学系の科目および社会科学系の科目の中、英語および社会、地理、文化に関連する科目 学習指針：英語コミュニケーション能力の向上のために「聞く」、「話す」練習を行うこと。異文化交流プログラムへの参加に向けて英語による発表資料を作成すること。 自己学習（事前学習および事後展開学習） 事前学習：異文化交流を行う対象国に関する基礎知識を事前に調査すること。学校紹介や日本文化に関する英語プレゼンテーションを行うための資料収集、英作文練習、発音練習を行うこと。 事後展開学習：各異文化交流プログラムを通じて学んだ知識、教養に関する英文報告書を作成すること。				
学修単位の履修上の注意					
授業の属性・履修上の区分					
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応	
☐ 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	Guidance of Lecture Contents and Teaching Methods	To understand how to learn the contents in English	
		2週	Area 1 : Europe Sweets and the House of Habsburg / The European Union	To understand the stories of Habsburg and the European Union	
		3週	Area 2 : Africa The Masai Mara National Reserve / Souvenir Shopping in Africa	To expand the interest and knowledge about Africa	
		4週	Area 3 : The Middle East Holy Places / Strategic Seaway	To enjoy thinking related on the Middle East	
		5週	Area 4 : South Asia Mumbai and Jaipur / Afghanistan	To be critical on the social issues in South Asia	
		6週	Area 5 : Russia and its Neighboring Countries St. Petersburg / Ukraine : Caught between Russia and Europe	To be flexible and to use English for speaking out	
		7週	Area 6 : East Asia Super Sky Railway to Inner Highland / The Two different Faces of Korea	To integrate learning for taking a step forward	
		8週	Area 7 : Southeast Asia A Country of Cultural Diversity / Religious Diversity	To compare cultural and religious diversity	
	2ndQ	9週	Area 8 : North America Country of Immigrants / The American Dream	To understand the history of America	

		10週	Area 9 : Central America and the Caribbean The Panama Canal / Revolution and Socialism	To expand the knowledge about Central America and the Caribbean
		11週	Area 10 : South America Rio de Janeiro / Japanese Immigrants	To understand the history related on Japanese immigrants in South America
		12週	Area 11 : The South Pacific and the Antarctic The Last Unknown Place on the Earth / What is the Antarctic like?	To enjoy learning about the last unknown place on the earth
		13週	Area 12 : Australia and New Zealand A Continent of Modern Cities and Unique Nature / Animals and Plants Unique to Australia and New Zealand	To develop intercultural communicative competence
		14週	Summarizing : Group Presentation & Discussion	To express the knowledge of other countries with intercultural understanding
		15週	Final Assignment	
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		Group Presentation	Assignment / Report	合計	
総合評価割合		50	50	100	
基礎的能力		50	50	100	

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	グローバルエンジニアスキル	
科目基礎情報							
科目番号	0011			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	グローバルエンジニア養成教育プログラム (GEP) (ベーシックコース)			対象学年	5		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	Barnaby Newbolt (著) Climate Change						
担当教員	Leigh McDowell						
到達目標							
The ability to use English technical terms, mathematical formulas, units, etc. to freely conduct basic communication in English while working in a specialized field.							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
Reading Skills	Understand the contents of the text accurately.			There are some mistakes, but can understand generally.		Many errors and poor understanding.	
Expression	Express your own ideas accurately.			There are some mistakes, but can express your own ideas generally.		Many errors and difficult to express your own ideas.	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	When working as an engineer or researcher in the science and technology field in the future, it is necessary to smoothly communicate in English. In this lecture, students will learn English vocabulary related to science and technology and related English expressions, and will also be able to express their ideas logically in English on a given topic through individual / pair / group work.						
授業の進め方・方法	Work on language activities focusing on Speaking and listening. Discuss a given topic in pairs or groups to improve their English speaking skills.						
注意点	In order to achieve the above goal, students are required to review the text and review the lessons of the class, and actively engage in English learning.学習指針：地球環境問題に関する知識と理解力が求められる。 関連科目：グローバルチャレンジ、異文化交流、英語科科目 事前学習：英語ネイティブの発音を聞く練習を行うこと。授業で学ぶチャプターの英単語を事前に調べること。 事後展開学習：授業で学んだ内容を理解し、本文の英文音読を行うこと。各話題について英語で意見を述べること。						
学修単位の履修上の注意							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	Guidance		Explain the contents of the course, how to proceed, and marking policy.		
		2週	Keywords for the topic		Learn the outline and keywords of the textbook.		
		3週	Chapter1: What is climate change?		Understand the contents of Chapter 1 and discuss them in English.		
		4週	Chapter2: How does our climate work?		Understand the contents of Chapter 2 and discuss them in English.		
		5週	Chapter3: Getting warmer		Understand the contents of Chapter 3 and discuss them in English.		
		6週	Chapter4: Wetter – and drier		Understand the contents of Chapter 4 and discuss them in English.		
		7週	Chapter5: Extreme weather		Understand the contents of Chapter 5 and discuss them in English.		
		8週	Chapter6: Slow or sudden change?		Understand the contents of Chapter 6 and discuss them in English.		
	2ndQ	9週	Chapter7: How bad will it get?		Understand the contents of Chapter 7 and discuss them in English.		
		10週	Chapter8: Is it all bad?		Understand the contents of Chapter 8 and discuss them in English.		
		11週	Chapter9: Carbon		Understand the contents of Chapter 9 and discuss them in English.		
		12週	Chapter10: What are our governments doing?		Understand the contents of Chapter 10 and discuss them in English.		
		13週	Chapter11: What can you do?		Understand the contents of Chapter 11 and discuss them in English.		
		14週	Review		Understand the contents of Chapter 1~11		
		15週					
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
		Weekly Assianment		Class Participation		合計	

総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	80	20	100